

12. 環境計画

(1) 自然エネルギー等の活用

「太陽光利用」

- ・蓄電池付太陽光発電を設置し、電力使用量ピーク値の抑制や、停電時の電力として使用できるようにします。

「自然素材」

- ・人体への安全性及び快適性、地域産業の振興を促進するため、自然素材である京築ヒノキを採用します。

(2) 外部熱負荷の抑制

- ・外壁の断熱、屋根の高断熱化、高気密サッシの採用による断熱を行います。
- ・庇により直射日光を遮断します。
- ・開口部には一部 Low-E ガラスを採用し、夏季の日射熱の侵入を抑制します。

(3) ライフサイクルコストの低減

「維持管理しやすい庁舎」

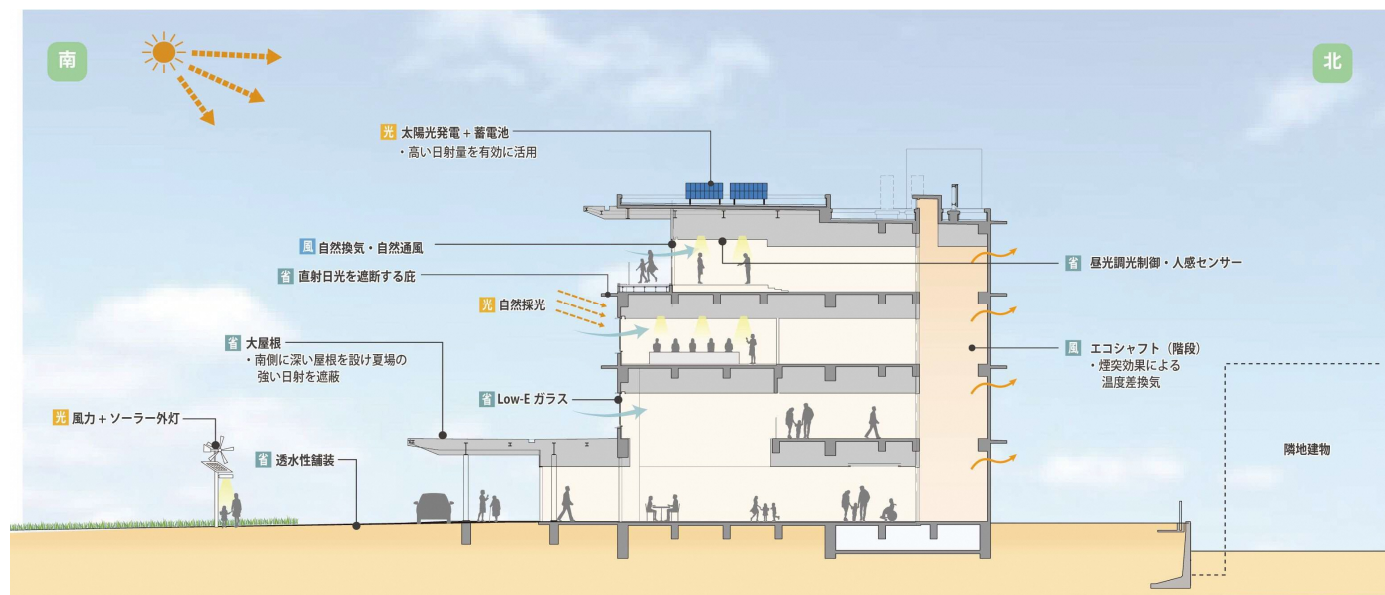
- ・執務室、会議室等は組織改編等によるレイアウト変更に対応できるOAフロアを採用します。そのほか設備機器を中心とした維持管理の効率化のため、集中管理を可能とし、日常保守業務を効率化や省力化します。

「光熱水費の低減」

- ・空調は高効率の機器及び排気熱回収機器の採用により、昼間の電気消費量を低減します。
- ・照明はLEDの採用、人感センサーや昼光センサーによる照明制御を行い、電気消費量の低減を図ります。
- ・衛生器具については、節水型の衛生器具を採用することで、水資源の節約を図ります。これらの高効率機器の採用と、自然エネルギーの活用や外部熱負荷の抑制を組み合わせることで、光熱水費を縮減します。

(4) 見える化による環境・省エネルギー啓発

- ・太陽光発電の発電量を住民プラザに設置したディスプレイに表示し、庁舎を訪れる住民に対して環境配慮・省エネルギーを啓発します。



環境断面イメージ